

## 北海道 胆振東部地震による被害関連情報

(第3報)

2018年9月28日

各教区主教様  
各教区事務所・教務所責任者の皆様  
管区総主事 矢萩新一司祭様

主の平安をお祈りいたします。

9月6日に発生した北海道胆振東部地震から3週間あまりが経過しました。現在も600名ほどの方々が避難生活をしておられ、その中には生活の再建、事業の再開の目途が立たない方々が多くおられます。これから寒い時期を迎えますので、早期の回復が望まれます。

北海道教区は9月19日より苫小牧聖ルカ教会に「聖公会ボランティアセンター」を設置いたしました。10月3日までの限定的な活動ですが、神戸、東北、横浜、京都など複数の教区から、信徒、教役者の方々が参加、または参加の申し込みをいただき、感謝申し上げます。この度の報告では、センターの責任者である吉野司祭のレポートをお送りいたします。被災地の状況が少しでもお伝えできれば幸いです。

改めて、亡くなられた方々、困難な生活を強いられている方々を覚えて、主の癒やしと回復の道が整えられますことをお祈り申し上げます。

### <ご報告>

胆振東部地震 聖公会ボランティアセンター 責任者 司祭 吉野暁生

ボランティアセンターが開所した当初は利用者がなかったのですが、吉野が作業に参加しました。9/19、20はむかわ町に、9/22、24は安平町です。21日より、ボランティアの参加がありました。

厚真町は報道で注目度が高いためか、ボランティアは募集の2倍ほど集まっている状況です。安平町は幼稚園運営の登録システム(ICT)を使ってボランティアの登録などを行っていることもあり、安定して人が集まっているようです。それに比べてむかわ町は、人の集まりが少ない印象でした。



厚真町も町の中心部には家の大きな被害はありませんが、農村部に土砂崩れのため被害が集中している状況です。また完全に壊れてしまっている家も多くあります。後継者不足に苦しむ稲作、酪農地帯でもあります。むかわ町は町の商店街で、一階が店舗の家の店舗部分がつぶれている家が多いです。安平町は家の被害は多くないようですが、その分、家の中のものが多く倒れ、そういった被害が多い印象でした。また、どの地域も家そのものは無事でも、家具などへの被害が多かったようです。

現在の主な作業は災害ゴミの回収です。倒れたタンスや本棚、割れた食器や電球などを回収して災害ゴミとして一時集積所に持って行きます。場合によっては搬出も行います。参加して下さっているボランティアさんには、これらの作業をお願いしています。

各々の町の共通した状況として、高齢者世帯が多く、もともと多くの物を処分できずにため込ん

でいる家も多いため、それらのものも併せて町内をきれいにしていこうという流れがあり、災害ゴミに混じって、それらを処分している状況です。また、最近になって近隣市町村の親せき宅などに避難していた人々が戻り始めており、それらの方のごみがこれから出てくるでしょう。しかし、各町の災害ゴミ回収は 9/30 までとなっているため、特に今週末は非常にボランティアの需要（特に力仕事）があるものと思われます。

避難所生活が長引かないよう、仮設住宅の整備、また見なし仮設への移住も進んでいます。そして、これから心のケア等の動きも大事になってくるでしょう。

報道では「日常が戻ってきている」と言いますが、全体的に少しずつ戻ってきているというよりは、「戻れた人」がぼちぼち出てきたということなのだろうと思います。「戻れない」人にとっては、少しも「日常」ではありません。

避難所では、子どもの泣き声をめぐって車中泊やテントで生活している人もおられます。そのような方々に暖かい手が差し伸べられることを願っています。また、週明けに北海道に再接近する台風の影響が懸念されます。地震で傷んだ家屋や店舗、農地に再び被害が及ばないことを願っております。

（自治体の要請によって写真の掲載を自粛しておりますのでご了承ください）

日本聖公会北海道教区 主教 ナタナエル 植松 誠  
事務所主事 司祭 コルベ 下澤 昌